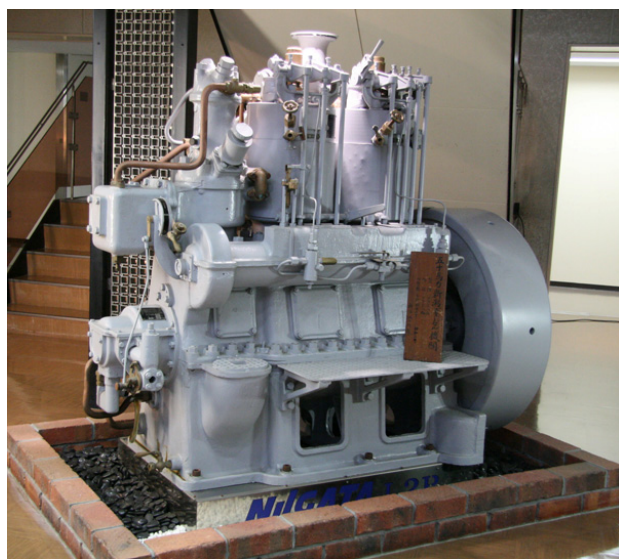


2010 年度の主な動き

- 2010 年 6 月 増産設備投資が完了しました。太田工場及び新潟内燃機工場で設備起動式を実施。
- 2010 年 9 月 船用機器展示会 SMM ハンブルク（ドイツ）に出展しました。
- 2010 年 9 月 IMO の NOx 2 次規制に対応したタグボート向けとしては国内初となる船用主機関 6L28HX を出荷しました。
- 2010 年 10 月 新型ガスタービン機関 CNT-6000EN (6000kVA) 2 台を印西データセンター殿向けに初出荷しました。
- 2010 年 10 月 ディーゼルエンジン「ニイガタ L2P」（1928 年製造）が国立科学博物館の「重要科学技術史資料」に登録されました。
- 2010 年 12 月 IMO の NOx 2 次規制に対応した新型船用機関 6MG28AHX を初出荷しました。
沖縄ー大東島間の定期航路を運行する貨客船に搭載されます。
- 2010 年 12 月 堺市大和川ポンプ場殿向けガスタービン CNT-4002MN (5 台受注) の火入れ式を実施しました。
- 2011 年 3 月 東日本大震災で東北支店、八戸出張所が被災。



SMM ハンブルク（ドイツ）展示会場 28AHX 実機を展示



重要科学史資料に登録された L2P（太田工場で展示）

当社の前身である株式会社新潟鐵工所が 1928 年に製造した 4 サイクルディーゼルエンジン ニイガタ L2P が、平成 22 年度の重要科学技術史資料として登録されました。

重要科学技術史資料は、独立行政法人国立科学博物館が「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存・活用を図るために、平成 20 年度より実施している登録制度です。

本機関は、新潟鐵工所が 1919 年に開発した最初の国産船用ディーゼルエンジンと同系であり、現存する機関としては最古級のものであります。このディーゼルエンジンの成功を機に国産ディーゼルエンジンが船用主機関や産業用機関として広く用いられるようになりました。黎明期の国産ディーゼルエンジンの姿を今に伝えるものとして、今回の登録に至りました。

九州帝国大学（現九州大学）に納品され試験用機関として利用されてきたものが、平成 17 年に当社に寄贈され、現在、太田工場（群馬県）に保存、展示されています。

環境への取組みの経緯

2001 年	2 月	(株)新潟鐵工所 新潟内燃機工場第一回環境改善委員会 2003 年新潟原動機発足後も活動を継続
2003 年	10 月	全部門 ISO9001 統合拡大審査認証取得
2004 年	4 月	全部門 ISO14001 拡大審査認証取得
2004 年	10 月	環境報告書創刊ワーキンググループ発足
2005 年	4 月	新潟地区廃棄物削減委員会発足
2006 年	7 月	環境報告書創刊
2006 年	12 月	第 2 種エネルギー管理指定工場（太田・新潟鑄造）による省エネ委員会発足
2007 年	7 月	環境報告書第 2 号発行
2007 年	8 月	新潟内燃機工場が第 2 種エネルギー管理指定工場に指定
2008 年	4 月	環境小委員会で各工場のゼロエミ活動について審議
2008 年	7 月	環境報告書第 3 号発行
2009 年	3 月	新潟ガスタービン工場でゼロエミッション達成
2009 年	6 月	改正省エネ法対応として環境対応組織を再編成して第 1 回環境管理会議を開催
2009 年	7 月	環境報告書第 4 号発行
2010 年	3 月	太田工場、新潟内燃機工場でゼロエミッション達成
2010 年	7 月	環境報告書第 5 号発行
2010 年	10 月	新潟原動機が特定事業者に、太田工場と新潟鑄造工場が第二種エネルギー管理指定工場に指定
2011 年	2 月	太田工場保管の PCB を無害化処理のため北海道に出荷

